

懐かしい顔と舞に心打たれ

在京150人が集い交流深める

東京近郊に暮らす本町出身者などが集い交流を深め合う「ふる里山田同郷の会」が6月27日、東京都文京区の東京ガーデンパレスを会場に開かれました。今年で25回目となる同会には会員など150人が出席。町からも沼崎喜一町長をはじめ職員5人、町議会から昆暉雄議長、山田町商工会から阿部幸榮会長が参加しました。総会終了後には「懇親交流の集い」が開かれ、参加者は年に一度の同郷人との交流を楽しみました。

総会では、小川俣弘会長が「これまでの当会の歩みは、ご案内のたびに参加くださる会員の皆さんの古里を思う気持ちに支えられてきたものと感謝申し上げます。世界的経済不況や南米の地震による津波などの影響もあり、地元の経済環境を取り巻く状況は非常に厳しいものと聞きます。会員の皆さんにおかれましても、ふるさと納税の制度をご理解いただき、それを実施することにより古里をバックアップしていただければと思っています。今日は時



抽選会で町の特産品が当たり笑顔の参加者



物産販売で古里の味を買い求めるのも楽しみの一つ



旧友たちとの再会が年に一度の楽しみという織笠出身の皆さん

時のたつのも忘れ、近況報告や思い出話に会話が弾みます



参加者にインタビュー

数十年ぶりの虎舞に感動

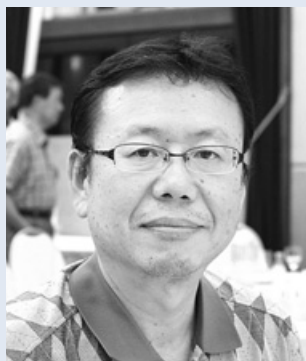


東京都八王子市
白野恵美子さん(59歳)
〔境田町出身・旧姓三田地〕

友人に誘われて初めて参加しました。小さいころから親しんできた虎舞を数十年ぶりに目の前で見る事ができ、懐かしさのあまり涙が出てきました。境田町出身なので、秋になり海岸から太鼓や笛の音が聞こえてくると、秋の終わりを感じたものです。山田の誇る豊かな自然や温かい人情はいつまでも変わらないでほしいですね。

古里の魅力PRに工夫を

東京都江東区
白土昌則さん(52歳)
〔境田町出身〕



小さいころは虎舞もやっていたので血がたぎりますね。年に一度は実家に帰っていますが、お祭りの日程を休日に合わせているおかげで、遠方に住む者にとっては予定を合わせやすくありがたいです。山田には素晴らしい素材があるので、イベントでも特産品でもPRをもっと積極的に行うべき。情報を発信するとともに、もっとホームページを見てもらうようにするなどの工夫が必要だと感じます。

旬の便りが何より楽しみ



神奈川県葉山町
山崎時彦さん(67歳)
〔大浦出身〕

今年も地元から旬の便り、新鮮なウニが届きました。海の幸を山田から毎月取り寄せているのですが、山田産のものは格別ですね。友人とパーティーする時などは、その日の朝届くように送ってもらいみんなに振舞うのですが、その新鮮さに喜んでもらえます。古里の大きな自慢の一つです。経済面など都会の良さだけを追うのではなく、地方の良さを見つめなおし、都会にも広げたいですね。



間の許す限り心行くまでお楽しみください」とあいさつしました。
続いて、沼崎喜一町長が町の近況を報告。「ふる里山田同郷の会が25年目の節目を迎えられたことにお祝い申し上げますとともに、皆さま方から多大な古里山田へのご支援、そして激励を賜りましたことに、町民を代表して心から感謝申し上げます。先日の津波では養殖施設を中心に大きな被害を受けましたが、何とか復旧を終え、苦難を乗り越

えようと頑張っております。今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます」と述べました。
その後、平成21年度の事業報告や本年度の事業計画が審議され、原案どおり承認されました。総会終了後の「懇親交流の集い」は昆暉雄町議会議長の乾杯の音頭で幕が開きました。会場内には談笑の輪がいくつもでき、参加した皆さんはほろ酔い気分。また、特産品が当たる抽選会も行われ、場内は大いに盛り上がりました。
今回は、25回という記念すべ

き会に古里の香りを届けようと『山田境田虎舞』が参加。会場内を所狭しと暴れまわると、会員の皆さんは勇壮な舞に見入っていました。中には懐かしさにハシカチで目頭を押さえる人や、カメラを片手に追いかける人もいて、会場はすっかりお祭りムード。古里の活気を感じるひとときを満喫しました。
2時間という短い時間で皆さんとの交流に満足した様子。出身地区ごとに記念撮影を行った後、来年の再会を約束しつつ会場を後にしました。